

## 『2017JRDM 報告書』

昨年続く 2 回目の開催となる『2017 ジャパンレースディレクターズミーティング (JRDM)』を 2 月 24 日 (金) ベルサール新宿セントラルパーク (東京都新宿区) において開催しました。

本会は全国からマラソン大会等で運営にあたる方々や都道府県陸上競技協会の方々を対象に、日本陸連、スポーツ庁、ロードレースコミッションからのプレゼンテーション、およびパネルディスカッションを通じ、国のスポーツ施策、日本陸連が掲げる「ウェルネス陸上」の理念に対する、市民マラソンの今後のあり方について検討をすることを目的に開催されました。

当日は 200 名を超える方々の参加をいただき、活発な議論や情報交換がなされました。

### 【 プレゼンテーション① 「日本陸上競技連盟の今後の取組について」 】

尾縣 貢 (日本陸上競技連盟 専務理事)

尾縣貢専務理事は、昨年新たに掲げた「ウェルネス陸上」の理念を、スポーツ庁の取り組む「成人の運動実施率の向上」を踏まえた「日本陸連中長期計画」(現在策定中)に落とし込み、市民マラソン大会の発展およびランニングの普及に対する日本陸連が取り組むべき方向性について述べました。

- ・スポーツ庁は週1回以上の運動実施率向上させる数値目標として、平成33年度末までに全人口の2/3 (6,000万人) のスポーツ習慣化を掲げている。日本陸連はその1/3にあたる2,000万人をランニング人口で達成したい。
- ・課題は女性参加率の低さにある。年間のフルマラソン完走者数、各大会の参加者構成をみても女性参加比率が少ない。距離にこだわらず、女性のランニング大会参加を促進していく
- ・更にランニングをよりライフスタイルに根ざしたものにするために、日本陸連は大会の発展を支援するとともに、大会以外でのより日常でのランニング活動を環境づくりを推進していく
- ・具体的には経済産業省が指定した「プレミアムフライデー (月末金曜)」を「JAAFRunMy City (仮称)」として、ランニングきっかけづくりとし、あわせて正しいランニングの普及活動を実践する。

### 【 プレゼンテーション② 「スポーツを通じた健康増進・地域活性化」 】

## 岡崎 健一 （スポーツ庁健康スポーツ課 課長補佐）

岡崎健一課長補佐は、スポーツ庁が取り組むミッションに触れつつ、ウェルネス陸上と関わりの深い、スポーツを通じた健康増進や地域活性化など、新たなスポーツ施策を中心に説明しました。

- ・スポーツ庁においては、平成29年度予算案に、地方公共団体において スポーツに興味・関心を持ち、習慣化につながる取組への支援や、国民の 心身の健康の保持増進を図るためのスポーツガイドラインの策定、官民が 連携してビジネスパーソンがスポーツに気軽に取り組める機運の醸成を図る国民運動などに取り組む費用を計上しています。

- ・また、スポーツツーリズムは、出発前のスポーツ用品やファッション等の購入、 旅先でのイベント参加・観戦など、通常のツーリズム以上の関連消費も期待でき、スポーツGDP拡大と、交流人口の拡大の両方に大きく寄与する産業と言えるため、スポーツ庁としてはスポーツツーリズムも盛り上げていきたいと考えています。

- ・今後も日本陸連と連携しつつ、国民の誰もが年代や関心、適正等に応じて日常的に スポーツに親しむ機会を充実させていきたいと思えます。

## 【 プレゼンテーション③ 「ロードレースコミッション報告」 】

### 大嶋 康弘 （日本陸上競技連盟 事業部長）

大嶋康弘事業部長は、昨年ロードレースコミッションの創設を宣言してから同コミッションの取組について報告しました。

- ・イギリスではロンドンオリンピックに向けてイギリス陸連、国内大会、クラブチーム、地方の代表から構成された「runbritain（ランブリテン）」を設置する等、世界的に競技団体が市民ランナーの環境整備に取り組む傾向にある中で、日本陸連の「ウェルネス陸上」の理念を実現をする組織として設置された。

- ・ロードレースコミッションの活動は「安心・安全な大会の実現」「正しいランニングの普及」が2本柱とし、「各大会との連携」「大会運営基準」「普及活動」「ランナーと大会のプラットフォーム」の4つのワーキンググループ（以下、WG）に分けて活動を進めている

- ・WG1の役割は「各大会の連携」。今後、レースディレクター（大会担当者）を組織体として「Road Race Director's Club」を設置し、会員に対してニューズレターや研修会の案内等の情報交換を行う場を作っていく

- ・WG2では「安心・安全な大会づくり」を議論し、大会担当者のタスクリストである「Road Race Director's Handbook」や各大会の事例集などを作成し、今後の大会運営に関する一定の基準を設定していく

・WG3は「正しいランニングの普及」に取り組んでいる。日本陸連ランニングクリニックサポートプロジェクトを立ち上げ、各大会でのランニングクリニックに日本陸連公認指導者を派遣する。

・「ランナーと大会のプラットフォーム」を担当するWG4は、登録者情報・エントリー履歴・大会の記録などを一元管理できるプラットフォームを検討している



#### 【 パネルディスカッション 】

##### <パネリスト>

- 尾縣 貢 (日本陸連 専務理事)
- 大嶋 康弘 (日本陸連 事務局事業部長)
- 前河 洋一 (日本陸連 普及育成委員会 ランニング普及部 部長)
- 早野 忠昭 (東京マラソン レースディレクター)
- 岡村 徹也 (名古屋ウィメンズマラソン 事務局長・レースディレクター)
- 前島 信一 (長野マラソン 大会事務局 運営統括担当)

##### <ファシリテーター>

- 金 哲彦 (NPO 法人 ニッポンランナーズ 理事長)

パネルディスカッションには、上記6名のロードレースコミッションメンバーが登壇し、来場者への事前アンケートをもとに、ファシリテーターの金哲彦氏がアンケート結果や事例に対して会場とパネリストの意見を交互に聞きながら分析を進行しました。

また、コミッション活動の具体例としてWG3の前河部長がつとめる大会と連動した普及活動(ランニングクリニックサポートプロジェクト)の紹介を行いました。

大会側からは警備体制やボランティアなど運営スタッフの確保に対する課題が挙げられ、救護体制と合わせて、警備、救護、ボランティアが主たる運営課題であることが共有されました。

##### <参加者からの声>

- ・フルマラソン開催となると警備費用がかさむ、警備員確保が困難
- ・警備員が多すぎると全員に伝達が伝わりきらないこともある

- ・ボランティアの高齢化がすすみ、若いボランティアが少ない
- ・新たなボランティアの発掘をしたい

＜パネリストからのアドバイス＞

- ・大会開催による経済効果を向上させるには、大会前日当日の宿泊やショッピングだけでなく、より期間を長くしたムーブメント作りによって成果が得られる
- ・大会の意義を明確なミッションとして掲げ、その意義を参加者や地域の皆さんに伝えることの意識が重要だ
- ・ボランティアの業務をより広範囲にとらえ、救護や警備などの運營業務にあたるような仕組みも検討できるのではないか

### 【懇親会】

パネルディスカッション終了後、各大会の皆さんとコミッションメンバーによる懇親会を開催し、直接の意見交換を行いました。また懇親会では金哲彦さんが直接マイクを持ち、来場者の意見をうかがう機会にもなりました。

最後は大嶋事業部長が謝辞を述べ、第2回のJRDMは終了しました。

